

ユーザーレポート User Report

ゼロ
0の証明

アルコールインターロックが変えた家族の未来

個人

「もう二度と裏切られたくない」息子が突きつけた最後の選択と、父の1年

これは、遠方で暮らす息子さんから寄せられた、悲痛なまでの叫びです。かつては真面目だったお父様が、定年後の生活で次第に酒に溺れ、家族の忠告も届かなくなっていく。見守る側の限界を超えたとき、息子さんが「最後の手段」として選んだのが、アルコールインターロックの導入でした。本レポートは、一台の機械がどのようにして、崩れかけていた家族の信頼と、お父様の健康を取り戻していったのか。その再生の軌跡を記録したものです。

ご利用機器

カメラ付き
アルコールインターロック装置

ALC-ZERO II



息子が動いた「最後通牒」 愛情と、隠しきれない苛立ちと

かつて真面目一筋だった父が、定年退職という空白の時間を境に、酒に吞まれていく。仕事への責任感から「休肝日」を守っていた父の姿はどこへ行ったのか。昼間から酒の匂いをさせ、ついには散歩中に倒れてしまう……。



遠く名古屋で暮らす息子さんの心にあったのは、単なる心配だけではありませんでした。何度も「やめてくれ」と言っても届かない、やり場のない「激しい苛立ち」。取材を通して見えてきたのは、息子さんの「父を一生の加害者にさせたくない」という、祈るような、しかし峻烈な決意でした。



※写真はイメージです

※文章、写真の無断転載や抜粋、加工は固くお断りいたします。

「万が一」を許さない、 2台同時の導入という決断 「これ以上、家族を振り回すのはやめてくれ」

何度も繰り返される口論の末、息子さんはなかば強引に、アルコールインターロックの導入を突きつけました。「万が一」を絶対に許さない。特筆すべきは、息子さんがお父様の車だけでなく、お母様の車にも同時にアルコールインターロックを装着することを決断した点です。

「お父さんの車だけに付けたところで、お母さんの車の鍵が自由になれば、いつか必ずその隙を突いて運転してしまう。そんな不安を抱えたままでは、僕たち家族は一步も前に進めない」。

導入にかかる費用や手間の懸念を上回ったのは、息子さんの「徹底して父を守り抜く」という強い意志でした。「どちらの車に乗っても、飲んでいけばエンジンはかからない」離れて暮らす息子さんにとって、この退路を断つような2台同時の導入こそが、父と家族の未来を繋ぎ止めるための、文字通り「最後の手」となりました。



荒れた食卓、ぶつかり合う意地、 そして「沈黙の承諾」

「俺を犯罪者扱いするのか！」 導入当初、家の中は嵐のようでした。プライドを傷つけられた父と、もう言葉では信じていけない息子。一時は絶望的な空気も流れたといいます。

しかし、2ヶ月の入院生活を経て、お父様は息子さんの頑固なまでの「怒りを含んだ愛」の正体に気づきました。「家族にこれ以上の苦勞はさせられない」。自由を差し出す代わりに、失いかけていた家族の信頼を必死に取り戻そうとする、父としての切実な決断。息子さんの苛立ちの裏にある「本当は信じたい」という願いを、お父様は痛いほどに受け止めたのです。

変化した日——家族に訪れた「静かな変化」と「これからの希望」

1 父の劇的な変化

断酒1年、手に入れた「健康」という証明

アルコールインターロックの導入は、お父様の意識を根本から変えました。車に乗るたびに行われる測定は、今や「自分は今日も息子との約束を守っている」という証明です。事実、導入以来、測定ログにアルコール反応が出たことは一度もありません。かつては深刻だった肝臓や膵臓の数値も劇的に改善し、お父様は今、週に数回、晴れやかな顔で仕事へと向かっています。

2 母の揺れる心

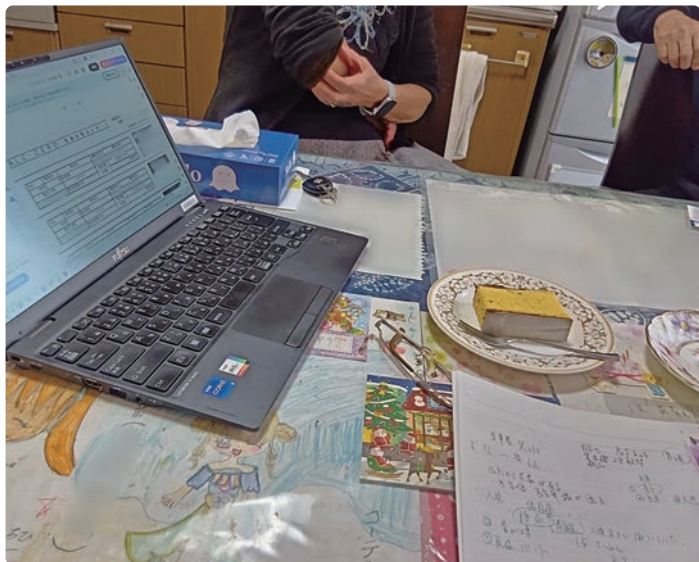
戸惑いから、一歩ずつの歩み寄りへ

導入当初、お母様は「恥ずかしくて、誰にも見せられない」と、ご近所の目を気にして肩を落としていました。今でも、その戸惑いがすべて消えたわけではありません。しかし、お父様がお酒を断ち、懸命に測定する姿を隣で見ているうちに、少しずつ心境が変わり始めています。「最初はパニックでしたが、今は少しずつ慣れてきました」。いつか心から胸を張って言える日が来ることを信じて、お母様は今、お父様と共にこの「新しい日常」を歩んでいます。

3 離れて暮らす息子を支える

「アルコールインターロックという名の安心」

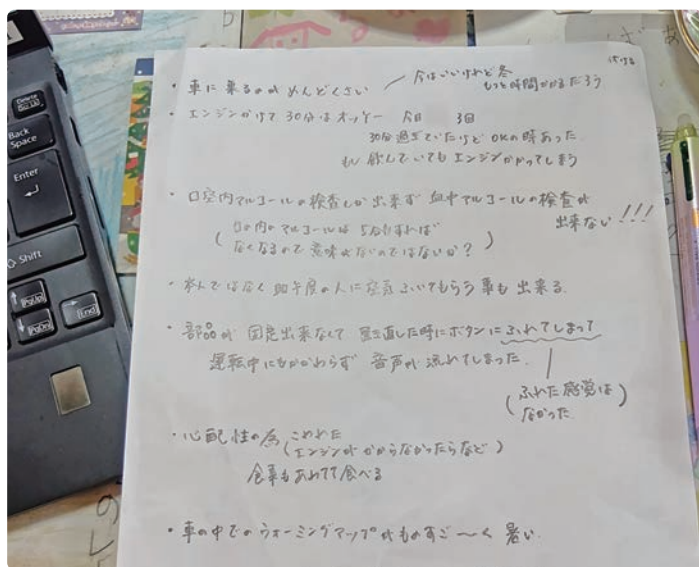
以前は電話一本かけるのにも「父は酒を飲んでいないか」と気を揉んでいた息子さん。直接データが届くわけではありませんが、「あの機械が車に付いている」という事実そのものが、息子さんにとっての「安心の拠り所」となりました。「アルコールインターロックがある限り、父は酒を飲んでハンドルを握ることはない」その確信が、かつての激しい苛立ちを、静かな信頼へと塗り替えようとしています。



納得への歩み

～不安を「安心」に変えるための対話～

取材時、お父様とお母様からは「もし機械が故障して、いざという時に車が動かなかったらどうすればいいんだ」という、切実な不安が何度も語られました。その心配性な一面は、息子さんの想いに応えたいという強い責任感の裏返しでもありました。私たちは、その一つひとつの疑問に丁寧に向き合い、「納得」を積み重ねていきました。



■「失敗」を「コツ」に変えるアドバイス

当初、測定時のエラー（H/L表示）に「自分の吐き出し方が悪いのか」とパニックになりかけていたお父様。しかし、「勢いよく吹くのではなく、一定の力で、カチンと音がするまで吹いてください」という具体的なコツをお伝えしたことで、ようやく「これなら自分でもできる」と安堵された様子が印象的でした。

■「冬場の知恵」で待ち時間の不安を解消

「寒い朝は時間がかかるのでは？」という懸念に対しては、「使用直前までセンサーをタオルで巻いて保温しておく、起動がスムーズになりますよ」とご提案。ご夫婦で協力してこの方法を取り入れ、冬場のストレスを「納得のいく準備」へと変えようと言われました。

■「息子に託す」という、諦めと安心のルール

毎年の保守費用などの支払いはお父様が自ラ行い、親としての責任を全うされています。しかし、鍵の厳格な管理や、複雑な契約手続きといった運用の実務については、最終的に「これからは息子にすべてを任せる」という形に落ち着きました。

元来、非常に心配性なお父様は、「もし自分の管理ミスで機械を壊したり、車を動かせなくなったりして家族に迷惑をかけたら……」と、取り返しのつかない事態を常に恐れていた様子でした。しかし、私たちが「お父様が迷わずに済むように、実務の舵取りは息子さんが責任を持ってくださるんですよ」と根気強く説明を重ねる中で、どこか「降参」したような表情を見せられました。

ユーザーレポート

User Report

ゼロ
0の証明

個人

「お金のことは自分たちでするけれど、ややこしい管理はもう息子に任せるしかないな」

それは、半ば諦めを交えつつも、自分で抱え込むことの限界を認めた瞬間でもありました。自身の不安を息子さんの差し伸べた手に委ねることで、お父様は「ただ安全に運転すること」だけに専念できるという、ご家族共通の平穏なルールを受け入れられたのです。

これは「制限」ではなく、自由を守るための「翼」

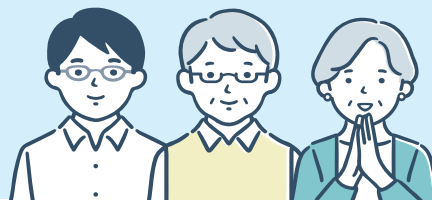
アルコールインターロックを導入することは、不自由になることではありません。大好きな運転を続けられる自由、家族と穏やかに過ごせる自由、そして「自分は大丈夫だ」と胸を張れる自由。ご家族は、この機械を通じてそのすべてを取り戻そうとしています。

「いつまでも、元気で走っていてほしい」。息子さんの切実な願いと、それに応えようとするご両親の懸命な姿。その想いはエンジンの音と共に、今日も静かに、力強く鳴り響いています。



取材ご協力

家族を守る方法の手段として、
アルコール・インターロックを導入されたMさんご一家



アルコール・インターロック
社会実装と個人装着を推進する

特設サイト

アルコール・インターロック.com

～飲酒運転加害者をゼロに～

東海電子WEBサイト

【アルコール・インターロック.com】

<https://alcohol-interlock.com/>



LINE 公式アカウント

大切な人の飲酒運転で
悩まれていたら…

@700xyfip



いつでも LINE で
ご相談ください!